

1981. 10. 20

# 九州大学 大型計算機センターニュース

No. 241

福岡市東区箱崎6丁目10番1号  
九州大学大型計算機センター  
広報教育室(TEL092-641-1101)  
内線 2505

## 目 次

1. 日本語LPの利用方法の変更について	1
2. データセットに対するRACF保護について	2
3. TSS端末入出力のロギング収集機能について	2
4. JISコード系TTY手順端末のサポートについて	3

### 1. 日本語LPの利用方法の変更について

これまで日本語LPはオープステーションに1台設置していましたが、カッター付のものが開発されたのでこれを2台導入し、他のLPと同じように計算機室に設置します。これに伴い10月26日よりオープステーションの日本語LPは使用できなくなります。

日本語LPのEBCDIC出力に関しては、1台はカナ(EBCDIK)、別の1台は英小文字が出力できます。

又、日本語LPは重ね打ちができませんので、重ね打ち用の出力クラス $\nabla W \nabla$ を新設しました。出力クラスは次のようになります。

- A : 標準出力(PL/I 60字セットLP, 日本語LP)
- W : 重ね打ち出力(PL/I 60字セットLP)
- K : カナ出力(日本語LP)
- S : 英小文字出力(日本語LP)
- O : 日本語及び図形出力(日本語LP)

カナ出力及び英小文字出力は日本語LPを使用するために重ね打ちはできませんので御了承下さい。出力クラス $\nabla A \nabla$ は日本語LPも使用しますので、重ね打ちを行うときには出力クラス $\nabla W \nabla$ を使用して下さい。又出力クラス $\nabla O \nabla$ はDSFの対象とならずにジョブ実行終了後、直ちに出力されます。

なお、オープステーションの日本語LPの撤去に伴い、予約制の日本語ディスプレイはターミナル室に移設します。

(業務係 (内) 2518)

2. データセットに対するRACF保護について

去る6月1日からすべてのデータセットは、従来のカタログ管理に併せてRACF (Resource Access Control Facility)によって管理されています。従って、RACFに登録されていないデータセットは、11月1日から毎日運用開始前に消去されますので御注意下さい。

(業務掛 電(内)2518)

3. TSS端末入出力のロギング収集機能について

11月1日より、利用者がTSSによってシステムと会話したとき、端末上に表示されるTSSコマンド、入力データ、システムからの応答メッセージ等の入出力データ(フルスクリーンモードでの入出力を除く)をログ情報として、データセットに収集することができるようになります。作成されるデータセットは、シスアウトデータセットか、又は順データセットで、あらかじめDD名“SYSTSLOG”に割当てられていなければなりません。

本機能を利用するには、下記のコマンドを使用します。

コマンド形式

コマンド名	オペランド		
LOG	$\left[ \begin{array}{c} \text{START} \\ \text{END} \\ \text{PAUSE} \end{array} \right]$	$\left[ \begin{array}{c} \text{CAPS} \\ \text{ASIS} \end{array} \right]$	$\left[ \begin{array}{c} \text{NOTIME} \\ \text{TIME} \end{array} \right]$

オペランドの説明

- START : ログ情報収集を開始、又は“PAUSE”指定による一時停止を解除する。
- END : ログ情報収集を終了する。
- PAUSE : ログ情報収集を一時停止する。
- CAPS : 英小文字を英大文字に変換する。
- ASIS : 英小文字を英大文字に変換しない。
- TIME : ログ情報に時刻を付加する。
- NOTIME : ログ情報に時刻を付加しない。

使用例

```
READY
ALLOC F(SYSTSLOG) DA(LOGEXAMP.DATA) NEW
READY
LOG START
*** TSS LOGGING STARTED TIME=10.00.00 DATE=10/15/81 ***
READY
...
...
READY
LOG END
*** TSS LOGGING ENDED TIME=11.00.00 DATE=10/15/81 ***
READY
LOGOFF
```

(業務掛 電(内)2518)

4. JISコード系TTY手順端末のサポートについて

10月12日より、TTY手順の端末コード系をシステム編集によらず、コマンドによって動的に選択できるようになりました。ログオン時には、標準のASCII(英小文字を使用できるコード系)になっていますので、JIS7コード(カナ文字)を使用するには、下記コマンドによって、端末のコード属性を変更する必要があります。詳細は文献[1]を参照して下さい。

コマンド形式

コマンド名	オペランド
SETCODE	$\left( \begin{array}{l} \text{LIST} \\ \text{INTERNAL} \left( \begin{array}{l} \text{ALPHA} \\ \text{KANA} \end{array} \right) \end{array} \right)$

オペランドの説明

LIST : 現在使用している内部コード、端末コードの種類を表示する。

INTERNAL : 端末との入出力の際に基本となる内部コード、端末コードの組を定義する。

ALPHA : 英小文字を使用できるコード系(ASCII)

KANA : カナ文字を使用できるコード系(JIS7コード)

参考文献

1. 計算機マニュアル TSSコマンドセットTTY使用手引書64SP-2140富士通㈱。

(業務掛 電(内)2518)